

## 世界史B

**第5問** 歴史統計は、各地の社会経済の構造やその変化を反映している。歴史統計について述べた次の文章A・Bを読み、後の問い(問1～6)に答えよ。(配点 18)

A あるクラスで、世界史の授業が行われている。

先生：次の表は、1929年の東南アジアにおける4つの植民地の主要な輸出先とその比率を示しています。表中のインドネシアは、現在のインドネシアに当たる植民地を指します。マラヤ(マレー)には、海峡植民地が含まれています。ここからどのようなことが分かりますか。

表 1929年の東南アジア各地の輸出先とその比率(輸出額上位5地域) (単位：%)

インドネシア		マラヤ		フィリピン		インドシナ	
マラヤ	28.1	ア	42.2	ア	75.7	香港	32.1
オランダ	21.0	イギリス	14.3	日本	4.3	フランス	22.1
ア	14.5	インドネシア	9.4	イギリス	4.3	マラヤ	10.8
インド	5.8	日本	4.2	中国	1.9	インドネシア	9.8
イギリス	5.6	フランス	4.1	フランス	1.4	中国	7.2

(『岩波講座 東南アジア史6』より作成)

石田：植民地は、宗主国としか貿易できないと思っていましたが、そうでもないですね。4地域の中で宗主国がトップなのは一つだけです。

先生：そのとおりです。宗主国との貿易の比率が高い地域とそうでない地域があり、輸出品や宗主国によって事情が異なります。① マラヤの宗主国が進めた自由貿易政策は東南アジア全体に影響を与えました。

佐藤：マラヤは、アへの輸出の比率が高いですね。なぜですか。

先生：マラヤの主要な輸出品はゴムでした。② 統計が取られた時点で、アにおいて、ゴムの需要が高まっていたのです。

工藤：インドシナも特徴的です。香港、中国といった東アジアの諸地域や、同じ東南アジアの植民地が上位に名を連ねています。

先生：インドシナの主要な輸出品は米でした。アジア地域の開発による人口増加に伴い、食糧として米の需要が大きかったと考えられます。

石田：この時期の東南アジアは植民地として政治的に分割されましたが、経済的には近隣の諸地域との関係が強かったのですね。他の地域でも同じことが言えるのでしょうか。

先生：それはまた調べてみましょう。東南アジアにおいても、ちょうどこの年にニューヨークで起こった株価暴落を契機として、この構造は変化していくこととなります。

問1 下線部①の歴史について述べた文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 29

- ① シンガポールを獲得して、東南アジアにおける交易の拠点とした。
- ② 19世紀後半に、自国の東インド会社の貿易独占権を廃止した。
- ③ 清との間に、公行の廃止を定めた北京議定書を結んだ。
- ④ オタワ会議(オタワ連邦会議)により、スターリング=ブロック(ポンド=ブロック)を廃止した。

問2 文章中の空欄 ア に入れる国の名あ・いと、下線部②の背景として最も適当な文X・Yとの組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 30

ア に入れる国の名

あ ドイツ                      い アメリカ合衆国

下線部②の背景として最も適当な文

X 大量生産方式により、自動車の普及が進んだ。

Y アウトバーンの建設が進められた。

- ① あ—X                      ② あ—Y                      ③ い—X                      ④ い—Y

## 世界史B

問 3 前の文章を参考にしつつ、1929年当時の東南アジア各地の経済と貿易について述べた文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

31

- ① コーヒー栽培が進められたインドネシアは、宗主国向けの輸出額の割合が4地域の中で最も低かった。
- ② ゴムプランテーション(ゴム園)の労働者として移民が流入したマラヤは、インドシナの輸出額上位5地域の中に入っていた。
- ③ フィリピンでは強制栽培制度による商品作物生産がなされており、アジア向けの輸出額は全体の2割以下であった。
- ④ インドシナの輸出額において最大であった地域は、インドシナと同じ宗主国の植民地であった。

B 世界史の授業で、先生と生徒たちが歴史統計を見ながら会話をしている。

先生：今回の授業では、歴史統計から世界史上の出来事について考えてみましょう。取り上げるのは、産業革命です。㉔世界初の産業革命は、イギリスで起こりました。次の表1・2は1600年から1801年にかけてのイングランドの人口統計です。これらを見て、どのようなことに気付きましたか。

表1 イングランドの都市人口比率 (単位：1000人)

年	1600	1670	1700	1750	1801
イングランド総人口	4110	4980	5060	5770	8660
都市人口合計	335	680	850	1215	2380
都市人口比率(%)	8.25	13.50	17.00	21.00	27.50

(注) 都市人口比率の数値は、原典の数値及び算出方法による。

表2 イングランドの農村農業人口比率 (単位：1000人)

年	1600	1670	1700	1750	1801
イングランド総人口	4110	4980	5060	5770	8660
農村農業人口	2870	3010	2780	2640	3140
農村非農業人口	900	1290	1430	1910	3140
農村農業人口100人当たりの総人口(人)	143	165	182	219	276

(表1・2とも E. A. Wrigley, *People, Cities and Wealth* より作成)

高橋：まず、表1を見ると、イングランドの総人口は、18世紀後半に急速に増加しています。そして、都市人口も増えています。この前の授業で、マンチェスターやリヴァプールなどの都市が発展したと学びました。

## 世界史B

松 山：表2を見ると、都市人口だけではなく、農村に住んでいながら農業に従事していない人口も増えていますよね。

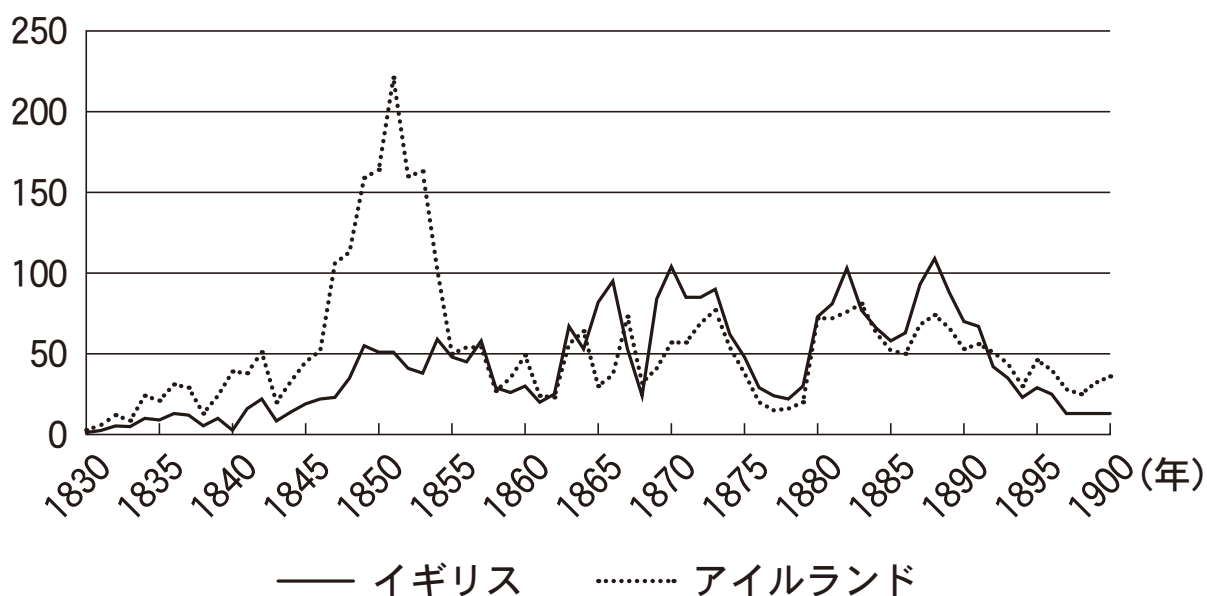
先 生：二人ともそのとおりです。表1・2の検討をさらに進めましょう。それでは、こうした変化の背景として、当時、何が起こっていたのだと考えられますか。

高 橋：18世紀後半の時期について、ことが読み取れます。それは、当時のイギリスにおいて、ことで、食料の供給が安定していたためだと考えられないでしょうか。

先 生：そのとおりです。人口統計には、社会や経済の大きな変化が表れているのです。次にグラフを見てください。これは、イギリスやアイルランドからアメリカ合衆国へ渡った移民の数をまとめたものです。

グラフ イギリスとアイルランドからアメリカ合衆国への移民数

(単位：1000人)



(グラフはB. R. ミッチェル編『イギリス歴史統計』より作成)

松 山：移民の送り出し国や受け入れ国で起こった出来事が移民数の変動に影響しているようですね。グラフを見ると、と思うのですが。

先 生：よく勉強していますね。これらの歴史統計を見ると、産業革命の時期に社会が大きく変化するなかで、イギリスの国内外で人の移動が活発になっていたことがうかがえます。

問 4 文章中の空欄 **イ** と **ウ** に入れる文の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **32**

- ① **イ**—表 1 を見ると、都市人口比率が上昇している  
**ウ**—土地が囲い込まれ(第 2 次囲い込み)、新農法が導入された
- ② **イ**—表 1 を見ると、都市人口比率が減少している  
**ウ**—鉄道建設が進み、全国的に鉄道の輸送網が完成した
- ③ **イ**—表 2 を見ると、農村農業人口 100 人当たりの総人口が上昇している  
**ウ**—農業調整法(AAA)が制定され、農産物の生産量が調整された
- ④ **イ**—表 2 を見ると、農村農業人口 100 人当たりの総人口が減少している  
**ウ**—穀物法の廃止により、穀物輸入が自由化された

問 5 文章中の空欄 **エ** に入れる文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **33**

- ① 1840 年代中頃にアイルランドで大飢饉(ジャガイモ飢饉)が発生した後、1840 年代後半にはアイルランドからの移民は増加している
- ② 1850 年代中頃にアイルランドがクロムウェルにより征服され、土地没収が強行された後、1850 年代後半にはアイルランドからの移民は減少している
- ③ 1870 年代初めにアメリカ合衆国で南北戦争が始まった後、1875 年のイギリスからの移民は、1870 年よりも減少している
- ④ 1890 年代初めにアメリカ合衆国でフロンティアの消滅が宣言された後、1895 年のイギリスからの移民は、1890 年よりも増加している

問 6 下線部㉔について述べた文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **34**

- ① 大西洋の三角貿易を通じて、綿製品、茶、アヘンが取引された。
- ② ダービーによって開発された、コークスを使用する製鉄法が利用された。
- ③ 選挙権の拡大を目指して、ラダイト運動(機械打ちこわし運動)が発生した。
- ④ 1833 年の工場法の制定によって、大気や水の汚染問題の改善が図られた。